

会 議 録

会議名	平成25年度第1回市史編さん委員会会議
事務局	教育委員会生涯学習課
開催日時	平成25年5月13日(木) 午前10時～11時30分
開催場所	802会議室
出席者	委員 出席：根岸委員長・小野副委員長・林委員・井上委員・上原委員・津幡委員(以上6名) 欠席：阿部委員・松平委員(以上2名) 牛米努さん(編集委員)
	事務局 天野・倉澤・伊藤
傍聴の可否	◎可・不可・一部可
	傍聴者：なし
不可の理由	

会 議 次 第

1 報 告

- 1) 市史編さん委員について
- 2) 平成24年度の市史編さん事業について
 - (1) 市史編さん委員会
 - (2) 部会の活動
 - (3) 古文書調査委託(梶野家文書)
 - (4) 『小金井市市史編纂資料第52編』下小金井村大久保家文書発行

2 議 題

- 1) 平成25年度の事業計画について
 - (1) 市史編さん委員会(任期：8月19日まで)・会議3回
 - (2) 部会の活動(近世・近代・現代)
 - (3) 古文書調査委託(梶野家文書)継続
 - (4) 『小金井市史 資料編 近代』編集・執筆・発行

[配布資料]

- (1) 小金井市史編さん年次計画
 - (2) 近代部会活動報告
- 印刷物 『小金井市市史編纂資料第52編』下小金井村大久保家文書

会 議 内 容

(根岸委員長) 今年度は市史の刊行が本格的になる、また編さん委員にも変更があるということで、会議を開催することにしたい。事務局から報告をお願いする。

報告 1 市史編さん委員について

(事務局；伊藤) 松平委員は4月18日に入院され、ご家族から電話で辞意が伝えられている。阿部委員については、ご高齢のため単独の外出が困難ということで辞意が伝えられている。

(根岸委員長) 両委員の辞意について意見はあるか。

(林委員) 松平委員は現代部会の中心となってきたが、松平委員が辞任となると、現代部会の今後はどうなるのか。

(事務局：伊藤) 現代部会の調査員4人は、松平委員が苦勞して集められた人達で、調査活動もこれからという段階にある。今までどおり調査員を中心に活動を続けてもらいたいと考えているが、まとめ役の編集委員は必要と思う。

(根岸委員長) 中心となる編集委員は決めなくてはならない。そこをうまく決めて欲しい。

(牛込編集委員) 現代部会は、調査員の中嶋さんが、最初から中心的に活動してきた。今後もまとめ役としてやられるのなら、調査自体は問題ないと思う。

(根岸委員長) 中心となっている方が、編集委員として、市史編さん委員会に出てきてもらおうと、委員会との意志疎通が図られる。その意味では編集委員がいた方がいい。人選については、事務局で検討して欲しい。

(根岸委員長) 阿部委員の辞意についてはいかがか。

(林委員) 老化により医師から外出を禁止されているということだが、格別の変化があるのか。

(事務局：伊藤) 町でお見かけした時は、介助の人が付添っており、一人での外出は困難なのかと感じた。

(根岸委員長) 阿部委員は、文化財保護審議会や市史編さん委員長を長く務め、多大な功績があった、顧問のような形で残っていただけないか。

(林委員) 阿部委員は、総合的な立場で関わってきた、今後も力を借りたい。

(根岸委員長) 阿部委員については、委員会での意見を参考に、事務局で検討して欲しい。

2) 平成24年度の市史編さん事業について

(事務局：伊藤) 市史編さん委員会は3回開催し(5月17日・10月15日・2月18日)。部会から調査の進捗状況について報告をいただいた。昨年度、部会は近代・現代部会が活動し、月1回程度部会を開催し各調査員が活動報告を行った。古文書

調査委託は、梶野家文書の筆写を行った。市史編纂資料については、『第52編 下 小金井村大久保家文書（近代編）』を200部発行した。市民協力員については、詳細年表の作成や、個別の調査を行ってもらった。今後通史編の参考になるものと考えている。

（根岸委員長）今の報告に対して質問・意見はあるか。なければ議題へ進む。

2 議 題

1) 平成25年度事業計画について

(1) 市史編さん委員会

（事務局：伊藤）今期の市史編さん委員の任期は8月19日まで、それまでに改選の事務手続きを行いたい。本年度の事業計画は、市史編さん委員会3回を予定している。

(2) 部会の活動

○近世部会について

（根岸委員長）近世部会については、自身が30年前から小金井の古文書調査に関わってきて、大きな枠組みはつかんでおり、そろそろ調査員と活動を始めようと考えている。近世の範囲は、天正18年（1590）に家康が江戸城に入ってから慶応3年（1867）、大政奉還まで。慶応4年については、近代編と齟齬のないようにするが、多少の入り組はあるかもしれない。基本的にこの地域の村の成立から、次第に村の中で自治的能力が高まっていき、村が成熟していく、そこから、外圧があるからだとか、政治的に明治維新を迎えたというのではなく、村の中から近代が生まれていくような課程、近代的意識を村の人たちが持って、近代を利用できるだけの、実力を持ってくるような課程ということを考えて史料を選びたい。2つ目は、中世から近世初頭は、ハケや野川添いに村があって、そこが張ってしてきたのが、17世紀の終わりから18世紀にかけて、次第に台地上に進出していく。武蔵野の原から畑となり、そこに享保年間に新田開発が行われながら、この地域の景観が大きく変わった。それが、近代の宅地化にも繋がっていく。景観と人々の生活の範囲や生産も変わってくるといったことを重視したいと考えている。3つ目には、人びとが近代を受容するだけの実力を持ち始めるということは、地域の人々が知識を持ち始める、それば貫井の寺子屋のようなもの、知識を持った人々が生活を変えていくといったことを考える上で良い史料が残っている。そういった中で、今までの歴史の中では触れられなかった女性や子供に対しても重視していきたい。

○近代部会について

（牛米編集委員）近代部会は1カ月に一回、会議を含めた調査を行っている。調査員はそれぞれの分担の調査を適宜実施している。今年度『資料編 近代』の刊行なので、それに向けてやっている。入力事務局にお願いし、進んでいる。この間、鉄道関係資料を国立公文書館、浴恩館関係資料を日本青年館で調査した。資料化に

については、現在検討中。新聞の調査も継続して行っている。資料編の章の構成案については、まだ固まっていないが、6章立てで、章の下に4つか5つの節を設けることを考えている。場合によっては節の下に項をつけることも考えている。10月までには、章・節・項をかためたい。統計資料も資料編の巻末に付けたい。事務報告書や東京府の統計書の数値も資料編に入れたい。現在600頁分位の資料が集まり、入力済んでいる。今後、資料の中身を精査することが必要になってくる。時代的に偏りがある。特に昭和期は、新聞資料ばかりで、行政資料が少ない。今後、行政資料も入れていきたい。鉄道に関してみると、関東大震災直前に東京市が膨張し、多摩地域に人が移ってくるというように一般に考えられているが、鉄道関係資料をみていると、昭和の初めに色々な鉄道計画があった。多摩地域では全国的にみても特殊な事情があった。それば砂利で、関東大震災の復興事業に砂利が必要であった。東京復興のための鉄道計画であった。多摩地域は、東京という大都市を維持していくためのいろいろな機能を持っていた。多摩墓地も同じであり、東京市と小金井地域・多摩地域との関わりを丁寧に見て行く必要がある。現在、こうした視点から資料の点検をしている。今後は、資料の精査と解題を視野に入れた資料選択を行っていきたい。今後は、凡例を作ること、入力した資料の精査、追加資料調査、産業関係資料の資料調査が残っている。産禦関係資料として、木下醸造所の資料も見つかっている。

(根岸委員長) 近代部会の活動報告について、質問等はあるか。

(井上委員) 東京農工大学工学部の前身は、高等蚕糸学校で、女工(糸取)さんの養成をしていた、そこが今もある蚕糸博物館と聞いている。どこまで取り上げるかはわからないが、調査する必要がある。

(牛米委員) 蚕糸学校については、移転誘致運動の資料はあるが、教育内容までは把握していない状況。

(井上委員) 桜町病院は、ホスピスとしても知られるが、古くから小金井にあったものか。

(事務局:伊藤) 桜町病院や隣にあった小金井養生院、小金井学園(施設)についても、戦前期の施設なので当然市史で触れることになる。

(根岸委員長) 病院や特殊な施設については、人権にも配慮しながら取り上げるべき。凡例については、巻によって資料の性格が違うので、別々の凡例という考えもあるが、不統一なのもおかしいので、各部会で話し合い、大まかな原則だけは決めたい。

(林委員) 近代編については、章立、今後の方針が示され、全体の構成が見えてきた。編集委員・調査員の皆さんに敬意を表したい。

○現代部会について

(事務局:伊藤) 現代部会は、これまで新聞資料、議会会議録の調査の他、婦人会、三多摩問題調査研究会、小金井市の女性施策等について個別調査を行ってきてい

る。現代編は、戦前の昭和12年(1937)から平成12年(2000)まで、時代が長く、資料も膨大、まだ、章立てや具体的な資料選択ができる段階ではない。

(3) 古文書調査委託について

(事務局：伊藤) 本年度の古文書調査委託については、昨年に引き続き、『梶野家文書』の筆写を行いたい。梶野家文書は、1177点あり、このペースで筆写が完了するには、数10年かかると思われる。そこで、後半部分は、学習を含めて小金井古文書の会で筆写を行うことにしたい。

(根岸委員長) 梶野家文書の筆写は、電子データで行っているが、虫喰いと墨書と区別が出来ないものがある。虫喰いのため筆写困難な資料が多い。去年は50点程しかできなかった。千点あるとすると何時終わるか分からない。取敢えず、読める範囲でデータ化しておき、市史に入れる時は、原本で校正すれば役に立つ。

(事務局：伊藤) 原本は所有者のもとにあるが、今後、保管状況がどう変わるか危惧される。校正のために借り出せるかも心配。

(4) 『小金井市史 資料編 近代』の刊行について

(事務局：伊藤) 本年度、「資料編 近代」を刊行する。発行部数は500部で、印刷製本費及び解題執筆謝礼を含め予算措置を行っている。遅くとも「資料編」本文は12月中、巻末の解題は1月中に入稿する必要がある。

次回の会議日程

10月21日(月) 10:00～ 第二庁舎 会議室

